

# 活き鮎通信

始良・伊佐地域青少年育成広報誌

発行

始良・伊佐地域青少年育成推進協議会  
第55号 令和6年11月

〒899-5212始良市加治木町諏訪町12

始良・伊佐地域振興局総務企画課地域振興係

TEL 0995-63-8109

FAX 0995-63-8108

HP 鹿児島県始良・伊佐地域振興局 健康・福祉→検索

## 始良・伊佐地域青少年育成推進協議会総会と 青少年環境づくり懇談会を開催しました!!

7月12日(金)、始良・伊佐地域振興局の大会議室で県青少年育成県民会議、管内警察署、教育事務所等に御参加いただき、令和6年度始良・伊佐地域青少年育成推進協議会総会と青少年環境づくり懇談会を開催しました。

教育事務所からは、携帯電話(スマートフォン含む)の所持率や利用に関する家庭内ルール設定率や平日におけるインターネットの利用平均時間等について、説明がありました。「令和3年度と令和5年度の所持率を比較すると、小学校は減少し中学校は上昇している。要因の一つに令和3年度調査対象の保護者の回答と昨年度調査対象の児童・生徒の回答とに認識の差があると考えられる。インターネット利用平均時間が3時間以上となる児童・生徒が小学校では11.9%(+8.1%)、中学校で26.4%(+17.9%)と増加している。いずれも県平均を上回っている状況なので、家庭と学校が連携し、児童・生徒に正しい利用方法について考えさせることが必要である。」との話がありました。



各警察署からは、管内の少年非行の現状について報告がありました。「不良行為少年の割合は高校生が高く、喫煙が最も多い。万引きや自転車盗が刑法犯の半数を占め、補導では深夜徘徊が大部分を占めている。同じ者が複数回補導されることが多い。」との報告がありました。



青少年育成コーディネーター等の活動報告では、伊佐市の小山辰生(こやま たつお)さんから、校区コミュニティの取組として、農業体験(田植え、稲刈り、プランターでの野菜づくり)や郷土料理、糸織コースターの製作などを紹介していただきました。

霧島市の塩井川公子(しおいがわ こうこ)さんからは、横川地区の青少年育成の活動として、中学生の山ヶ野金山ガイド体験、第3土曜日に各公民館で行われる「ふるさとの時間」の取組を説明していただきました。

どちらも児童・生徒数の減少や地域意識の希薄化を課

題として挙げておられました。

事務局からは、令和5年8月から令和6年1月にかけて実施した有害図書自販機等に関する立入調査の状況を報告しました。「コンビニでの有害図書の有無や管理状況、刃物販売店での購入に関する表示や年齢確認等について店側に確認をとったこと、無人有害図書自販機等の設置場所は所管する警察署員及び県青少年男女共同参画課との三者で確認したこと、自販機設置業者への条例遵守指導等」について説明し、共通理解を図りました。

### ○ 令和7年度「第47回少年の主張鹿児島県大会」へ向けて

標記大会は例年6月上旬に応募締切となります。年度が替わってからの取組としては難しいです。そこで、1年間を通して、いろいろな機会(長期休業中の課題等)に作品の基になる作文を蓄えて、応募内容とすりあわせ、作品を仕上げてください。

### ★ 高校・大学入試や就職試験でも小論文が課されます。是非、意見文に取り組んでください。

国際化が顕著な昨今、公の場で主張できる日本人が求められています。校内弁論大会のない学校がほとんどです。弁論大会の復活とともに意見文を書く機会を増やしてみませんか。

## 令和6年度 夏の「郷土に学び・育む青少年運動」 各市町での取組！！

湧水町においては家庭を離れ、異年齢集団による集団生活を体験することにより、家族の大切さを再確認し、自立性・協調性・忍耐力を培うことを目的として、「チャレンジャー湧水っ子inゆうすい」を実施し、参加者の団結や自立共生の意識を育てることができました。

また、今年度は南大隅町との交流体験も湧水町で開催し、ふるさと湧水町の魅力を発信するとともに、郷土愛への意識も高まりました。

次に霧島市福山町の「中・高校生クラブひまわり」の活動を紹介します。7月20日、8月17日に会員相互の親睦を図ることや問題解決能力を養うこと、地元福山町の活性化に寄与することを目指し読み聞かせなどを行いました。

7月27日（土）には、始良市蒲生町西浦地域の大山祇神社六月燈が行われました。事前に、地区コミュニティの方々が、児童数37人分の灯籠木枠を作成してくださり、子供たちは半紙に思い思いの絵やイラストを描き、灯籠を完成させました。当日は、地区コミュニティの方々が中心となり、神社に灯籠を設置するとともに、スイカ割りや花火なども企画してくださり、地域の方々と触れ合いながら、有意義な時間を過ごすことができました。



市町名	主な取組
霧島市	○「自然体験」「科学体験」事業 ○中・高校生クラブ ○ふるさと美化活動○野外クッキング
伊佐市	○ふるさと学寮 ○朝の立哨指導 ○親子体力作り ○校区奉仕作業 ○ラジオ体操 ○緑の少年団交流活動 ○読み聞かせ
始良市	○子どもの学習・生活支援事業への協力 ○神社六月灯 ○地域学校協働活動 (SSVC+) 広報 ○家庭教育ラジオ放送
湧水町	○ふれあいラジオ体操 ○青少年ふるさと美化活動 ○チャレンジャー湧水っ子inゆうすい ○中学生交流大会

## 春の「郷土に学び育む青少年運動」！！ 令和7年度

来年3月11日（火）から4月10日（木）までが、春の「郷土に学び・育む青少年運動」の実施期間となります。各市町教育委員会や青少年育成市町民会議等の計画で、いろいろな活動等が展開されます。関係者の皆様や団体のお力添え、御協力をよろしくお願いします！

## コンビニ・スーパー等に立入調査

鹿児島県の青少年保護育成条例に基づき、8月に当地域振興局管内のコンビニ、スーパー（ホームセンター・ドラッグストア等を含む。）、カラオケ店、100円ショップ、釣り具店、インターネットカフェ等に立入調査を実施しました。

対象としては、成人雑誌、包丁、刃物、玩具類の販売状況、青少年の出入時間等についての調査やステッカー（青少年への販売防止）の表示状況等の確認を行いました。ほとんど、適切に対応されていましたが、一部の店舗において、雑誌類が青少年が閲覧できる状態だったので、「紐やテープで閉じること」や、「販売の際には年齢確認をすること」などをお願いしました。また、刃物類の販売では、目立つ場所へのステッカー表示と購入の際の注意点をレジ担当者に確認いただくことについて協力を依頼しました。

青少年犯罪の未然防止の一環として、行政と販売店との共通理解・共通実践を行う機会としたところです。御協力・御理解ありがとうございました。

## SAGA 2024 国民スポーツ大会（湧水町開催）～ カヌースラローム地元応援



9月14日（土）、湧水町立轟小学校では、地元で開催されるSAGA 2024 国民スポーツ大会のカヌー競技観戦に招待され、全校で近くの「轟の瀬」に応援に行きました。ゴール近くの場所で、直接見るだけでなく、電光掲示板でも臨場感あふれる競技を観戦することができました。

しかも、リオ・東京・パリと3大会、オリンピックに出場している矢澤亜季選手に声をかけてもらいました。「これからカヌーやりたい人？」との呼びかけに、ほぼ全員が、嬉しそうに手を挙げていました。子供たちにとって、とても良い経験になりました。

もしかしたら、将来、オリンピックの選手が、轟小学校から生まれるかも知れません。楽しみです。

## 地域の繋がりを学校でも

地域の繋がりの希薄化や少子化により、子ども会が維持できない状況があります。始良市立錦江小学校区では18の地域があるのに、子ども会があるのは1つだけです。

そのため、地域の子供たち同士の繋がりを少しでも維持するために、学校では「地域縦割班」による清掃活動を実施しています。週3回の作業を通して、高学年はリーダー性を培うとともに、同じ地域の1年生から6年生までの顔と名前が次第に分かるようになります。顔見知りになった子供たちは、年齢に関係なく、放課後や休日において共に遊ぶようになり、子供の友人関係から親同士の人間関係に拡がり、ひいては地域の絆づくりにも役立っているそうです。

校区の公民館長さんも学校に大いに感謝されている活動の一つになっています。

## 流しそうめんや祭りで夏を満喫！

伊佐市牛尾校区コミュニティ協議会では、8月4日（日）の牛尾小学校の愛校作業が終了した後、「やる気坂流しそうめん」を実施しました。昨年までは全長80mで行っていましたが、11年前に始めた頃と比べて、児童数が半分以下に減少したため、今年度から長さを約3分の1に短くして実施しました。

それでも子どもたちは、流れてくるそうめんだけでなく、サプライズで時折転がってくるぶどうやミニトマトに歓声を挙げていました。そうめんを箸ですくい上げるのもだんだんと慣れてくると、つゆに上手につけ、美味しそうに口にしていました。



### 懐かしい十五夜の行事

始良市西始良校区コミュニティ協議会では、9月17日（火）の中秋の名月の日、西始良小学校校庭で「十五夜祭り」が開かれました。昔ながらに薄（ススキ）や萩などの秋の七草を飾り、月見団子と果物も供えました。



天気にも恵まれ、月明かりの中、長い夏の残暑も忘れ、始良ニュータウンの一面は、綱引きを応援する歓声と心地よい熱気に包まれていました。



霧島市万膳小校区の成政公民館でも十五夜行事が行われました。昔ながらに、稲藁を集めて大綱を編み、綱引きをしたり、うず巻状に土俵にして相撲を取ったりもしました。



残暑厳しき折でしたが、時々吹いてくる夜風に、少しは小さな秋の訪れが感じられ、参加した子供一人一人の心の中に、センスオブワンダー（自然に触れて深く感動する力）が、育まれていったのではと思います。

また、公民会内外からも多くの参加がありました。変わり映えのない日常に飽きてしまった大人たちにも、子供とかけがえのない時を過ごすことで、何か力を与えられたかもしれないと思えるひとときでした。

### 地域に響く朗読の声

霧島市向花小校区の府中自治公民館では、長年、夕読み活動に取り組んでいます。小学1年生から6年生が、公民館のマイクの前に座り、教科書を中心に朗読しています。

最初、緊張していた1年生も次第に慣れ、今では順番を心待ちにしています。家族はもちろん、地域の方々も、朗読をととても楽しみにしておられ、夕読み時には耳をそばだてています。今日では、府中地区になくってはならない伝統行事の一つとなっています。



## 西浦小校区 敬老会や運動会などで 青少年の健全育成推進

始良市西浦校区コミュニティ協議会では、学校と協力して、様々な体験活動を計画し、青少年の健全育成を推進しています。今年度はコロナ禍も落ち着いたこともあり、「敬老会」や「運動会」も今までどおりの規模や内容で実施することができました。

敬老会では子供たちも入って、「五つ太鼓踊り」を披露するとともに、おじいさん・おばあさんの肩たたきや肩もみを行い、孫が近くにいない方も多く、楽しむと同時に大変喜ばれ、涙ぐんでいる方も大勢いらっしゃいました。



校区運動会では、特認に興味ある親子の種目「おいでよ、西浦へ」や昔懐かしい「老人宝つり」も行われました。豊かな自然の中で、地域の方々と躍動する子供たちやお年寄りの方の笑顔を見るにつけ、参加者が、西浦の自然や人の豊かさを肌で感じられた一日となりました。

## 燃える持松校区の運動会 ～外から多くの人参加～

霧島市の持松小学校は、自然豊かな里山の中にある児童数8人の学校です。しかし、34人の外部児童、18人の鹿児島国際大学の学生の皆さん、保護者、地域の方々など約200人に集まっていただき、持松小学校・持松校区公民館合同大運動会が開催されました。持松小の児童は、紅白に分かれた外部児童をリードしながら、どの種目にも精一杯取り組み、練習を重ねてきた演技を堂々と披露することができました。



## 県青少年海外ふれあい事業に参加して !!

令和6年度「鹿児島県青少年海外ふれあい事業～香港交流コース」が、夏季休業中に実施されました。本事業は、「郷土に学び・育む青少年運動」の事業として、香港（シンガポールと隔年実施）に青少年を派遣し、香港（シンガポール）の青少年を受け入れ、交流活動を通じて国際的感覚やふるさとを愛する心の醸成を図り、次代を担う青少年リーダーを育成し、併せて、香港（シンガポール）との友好親善に寄与する目的で実施されるものです。管内では、高校・高専・大学生16人の応募があり、レポート、面接等、厳正な審査を通過し、2人が派遣されました。今回はその中から一人を紹介します。

- 自己紹介 国分高校 普通科 1年 前田 歩海（まえだ あゆみ）です。美術部に所属しています。趣味は、音楽を聴くこと、写真を撮ることです。

- 香港とのふれあい事業を通して、感じたこと、考えたこと

交流事業の目的の一つに「鹿児島の魅力を伝え、香港と鹿児島の親善を深めること」がありました。事前研修で鹿児島について調べると、鹿児島は魅力のある土地だ改めて感じました。だからこそ、香港の方たちへ鹿児島の自然や特産品などを伝えなければと身の引き締まる思いでした。



また、自分が興味を持っていた国際的な活動に参加し、グローバルな視点や新たな考え方を培いたいと考えました。歴史的にも鹿児島と関わりの深い香港で、国境を越えて絆を深め、私たち青少年が世界一体となって、築いていくべき未来について、考えるきっかけになったと思います。

- 将来の夢

将来の夢は、まだ決まっていません。でも、私はいろいろなことに挑戦することが好きです。将来、好奇心を忘れず、挑戦し続ける人間でいたいです。



- 次年度、希望する人への助言

自分の目標を持ち、達成のために行動し続ける意欲が大切です。この交流だけでなく、将来においても英語は役立つと思うので勉強してください。そして、国際交流のマナーを身につけておくことも大切です。国ごとに歴史や文化、政治に違いがあります。知識のない状態で訪れ、現地の方を不快にさせてしまつては、交流の目的を果たせません。

ふれあい事業は、多くの方々の思いや支えのおかげで成り立っています。だから、与えられた役割に対し中途半端な気持ちではなく、120%の力で取り組むことが責務だと思います。

今回、交流事業に参加するに当たって、課題レポートや英語原稿への助言、応募の準備や手続をしてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。このような価値ある学びの研修を与えてくださったことを忘れず、この経験を校内活動だけでなく、地域や将来のために役立てられるように、今後も努めていきます。本当にありがとうございました。

【編集後記】第54号から、青少年育成広報誌の名称を伊佐・霧島・始良・湧水の頭文字から、1文字ずつ取って「活き鮎」通信としています。

第55号では、夏から秋にかけての素晴らしい活動の全てを掲載したいところでしたが、紙面の都合で一部しか載せられませんでした。他の広報誌や新聞と重ならないように、いくつか特色ある活動を紹介しました。それぞれの記事に、子供たちの生き生きした姿を感じてもらえれば、有り難いです。